

くらぼ



広島県立広島中央
特別支援学校
(盲学校)
教育相談だより

No. 61 令和4年3月発行

～本校は視覚に障害のある方のための学校です。

すみじ 点字？墨字？

エレベーターや洗濯機などの押しボタン、駅の階段の手すり、公共施設内の地図や案内表示など、いろいろなところで点字が使われています。最近、ふりかけの袋やジャムのびんなど、食料品に点字がついていることが増えてきました。見て確認することが難しい視覚障害者にとって、点字は情報を入手する大切な手段です。ちなみに、「墨字」とは、紙に印刷したりペンや鉛筆などで書いたりする普通の文字のことを指します。



点字を読み書きするのは全く見えない人だけではありません。墨字の文字の判別ができるような見え方であっても、見えにくさのために読み書きに時間がかかるなどの場合は、点字を使う方が断然速く読み書きができるようになるケースもあります。点字と墨字、どちらの文字を常用するかを決める際は、見え方や読速度の他、知的発達段階や失明時期などを踏まえて、総合的な検討が必要になります。

成人の中途視覚障害者が点字を習得するのは至難の業です。しかし、学齢児童生徒の場合は、点字を習得するために必要な力が十分身に付いていれば、学習を始めて数か月のうちに五十音の点字を触って判別できるようになります。すらすらと読めるようになるためには長期に渡っての練習が必要ですが、積み重ねることで着実に力を付けていくことができます。

自由に読み書きできる文字をもつことは、学齢期の教科学習を行う上でも欠かせません。自分のペースで読み返しながらか理解を深めたり、自分の考えを文字に表しながら深く考えたりなど、思考の道具として文字を用いることが非常に重要になります。

点字の学習に入る前に…

点字の習得にあたっては、ある年齢になったら自然と点字が読めるようになるかというと、そうではありません。遊びや日常生活の中でたくさんの経験をしながら、触って分かる力を積み上げていく必要があります。触ることについて次のようなことを意識しながら、意図的な関わりや機会をとらえた指導をしていくことが大切です。

① いろいろなものを積極的に触ること

実際にものに触って、それが何であるか、どんなふうにするものなのかなどが分かる経験が大切になります。日常生活で使うものやおもちゃなど身近なものから、普段の子供の生活の中ではあまり触ることのないものまで、機会を見つけていろいろなものを触らせてあげてください。手の中に入れて持たせる、にぎったりなでたりする、操作する、などいろいろな触り方ができると理解が深まります。「触ることが楽しい」「触って確かめたい」という気持ちを育てることで、何でも触ることのできる手になっていきます。苦手な感触の



ものや、恐怖心がある場合は、無理に触らせようとせず、言葉で状況を説明しながら楽しい雰囲気を作ったり、大人が触っている手の動きを触らせたりするようにします。「何だろう」「おもしろそうだな」と感じれば、そのうち自分から触り、情報を取り入れることができるようになります。

② 自分でものを探ること

触覚では触れているところの情報しか得られないため、より多くの情報を得るためには手を積極的に動かして探す必要があります。ものを順番にたどるような手の動きがあったときは「じょうずだね」と伝えて、自分で探す習慣がつくと良いですね。よく遊ぶおもちゃなど、ものの置き場所を決めておくと、見通しをもって探すことができ、自発的な探索を促しやすくなります。ものを直接手渡ししたり手を取って場所を知らせたりすることも支援の仕方の一つですが、支援のしすぎは探索の機会や習慣を奪うことでもあるので、注意が必要です。

③ 指先をコントロールして触ること

指先でたどるときには、指の腹でたどること、線からそれずにたどること、線の終わりが分かって止まれること、押し付けなくて軽い触圧でたどることを意識してみてください。これらのことができるようになるためには、手指の運動の分化が必要です。遊びや日常生活動作の中で積極的に手を使い、「たたく」「にぎる」「つかむ」「つまむ」「押す」「ひっぱる」など、いろいろな手の使い方を経験させてあげてください。

④ 形を理解すること

指先で形をとらえるためには、形の輪郭をたどり、たどった軌跡をイメージできることが必要になります。直線か曲線か、角はいくつか、線の長さや角の大きさはどれくらいか、その一つ一つを触って確認することになります。積木など、形を意識したり、形の構成・分解を楽しんだりする遊びの中でも、形に対するイメージができていきます。



⑤ 位置関係を理解すること

点字は縦3つ横2つの6つの点が1マスとなり、点の組み合わせにより文字が決まります。縦・横・斜めなど、点の位置関係が点字を読むための大きな手掛かりになります。こうした空間概念の基礎は、自分の体を使うことで育まれます。前進・後ずさり、しゃがむ・立つといった動作が、前後・上下の理解につながります。ものを並べる・積み上げる・持ち上げる・運ぶといったことも、ものと自分の位置関係についての理解を促す効果的な活動になります。

⑥ 数量を理解すること

点の数が異なると文字が異なるのが点字です。数への関心の度合いを見ながら、触って数えたり、集める・分けるなどの操作をしたりなど、ものの量感がとらえられるように留意する必要があります。



ホームページを随時更新しています。「ミニ先生大集合！ぼくのわたしの学習方法！」では、本校児童生徒が自分の学習方法について動画で説明しています。白杖を用いた階段の上り下りの方法など、新しい動画が加わりました。是非御覧ください。

[http:// www.hiroshima-sb.hiroshima-c.ed.jp](http://www.hiroshima-sb.hiroshima-c.ed.jp)

教育相談主任：教諭 おおさい まこと
大財 誠
TEL 082-229-4134

